

令和3年度 自己評価アンケートまとめ
 社会福祉法人ほどがや ゆめっこらぶ

職員による自己評価(抜粋)

- ・活動スペースは十分に確保できている。(2フロアでひとつひとつは手狭ではあるが利用者配置を工夫しながら行っている)
- ・職員数は不足の状態である。
- ・日々のプログラムは試行錯誤しながら行っているものの、学校送迎等、時間の制約がある中で偏りが出てきてしまっている。
- ・父母会や地域の児童館との交流は特に行っていない。
- ・コロナ禍において個別面談の実施は満足いくようにできなかった。電話等にて行う予定にしていたが、連絡が遅れ、保護者から問い合わせをもらってしまった。

保護者による評価(抜粋)

- ・活動スペースは十分に確保されている。
- ・職員配置や専門性は適切である。
- ・放課後児童クラブや児童館との交流の必要性はあまり感じない。
- ・父母会の活動も必要性はあまり感じていない。
- ・概ね活動プログラムは固定化されずに工夫がなされていると思う。
- ・個人情報には十分な配慮がなされている。
- ・子どもは(利用者)は通所を楽しみにしていて、事業所の支援にも満足している。



事業所内での分析

| 【共通点】 | 【相違点】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業所のスペースは十分に確保されている。 ・放課後児童クラブや児童館との交流はあまり必要ない。 ・父母会の実施の必要性もあまり感じない。 ・子ども(利用者)の発達状況や課題について相互に話し合いが持たれ、共通理解ができている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員配置数について保護者からの指摘はないが、現場としてはやや不足感を感じている。 ・コロナ禍において十分な個別面談対応を行う事ができなかった。 |

事業所の強み

- ・放課後等デイサービスが事業化する前から地域にて障がい学齢児の預かりを実施してきた。その中で地域とのつながりやキャリアの長い職員がいることがひとつの強みになっている。
- ・日々の活動記録を積み重ねていることで利用者ひとりひとりに対して概ね一貫性を持った支援が行えている。

事業所の改善点

- ・人材不足がひとつの課題で募集はかけているものの思うように補充ができず、最終的な固定はできていない。
- ・高学年(高校生)や地域の支援級の利用者が多くなってきたことで学校送迎に取られる時間が長くなり、その分活動時間にしわ寄せが来てしまっている。
- ・活動のパターンについて上記の通り、時間に制約もあるなかで拡大が図れていない。

事業所の改善への取り組み

- ・まだまだコロナ禍の影響を受けている中で、感染防止には十分に気を使い取り組む必要がある。それにより活動の幅に制限はあるものの、普段の公園遊び等を通して新たな刺激や体験をしてもらえるように職員間で話し合いを持ち、試行錯誤していく。
- ・職員募集を法人とも相談しながら行い、人員増を図っていく。また、それに合わせてより安全で質のある支援を確立できるように職員間での共通認識を図っていく。

| | | |
|----------|----------|-----|
| アンケート配布数 | アンケート回収数 | 回収率 |
|----------|----------|-----|

| | | |
|----|----|-------|
| 25 | 14 | 56.0% |
|----|----|-------|